

2021年(令和3年)4月21日(水曜日)



あの人

この人



カマキリの研究で高松市の鶴尾小6年、湯浅萬尋さん(11)が、昨年度の市児童生徒科学賞(福家皎賞)小学校の部で最優秀賞に輝いた。詳細な観察記録と飼育中に生じた疑問への調査が高く評価され、「とてもうれしい。これからも研究を続けたい」と笑顔を見せる。

カマキリに興味を持ったのは2年生の時。捕まえたカマキリが体の手入れをする様子などを見て、他の虫にはない魅力に強く引かれた。以降、このカマキリを育て、産んだ卵がふ化し、新たな個体が成虫となって産卵する。そんな命のり

カマキリ研究で最優秀賞

レーを4年間ずっと見守っている。

一番うれしかったのは、昨年初めてふ化の瞬間を撮影できたこと。本でしか見たことのない神秘的場面を実際に目にし、とても感動したという。「卵を産む親も、生まれてくる赤ちゃんも一生懸命。頑張って生きる素晴らしさを教わった」

抱いている将来の夢の一つは「虫のお医者さんになること」。脱皮の失敗による足の欠損や突然死。手の施しようのない厳しい場面を見てきたことで、「虫の命を救う」という新たな目標も生まれている。

「カマキリから生きる素晴らしさを教わった」と話す湯浅さん

